

記号	農	番号	
----	---	----	--

検査V 農業解答例

共通問題解答

【共通問題Ⅰ】 3点×5問

1	①	27
	②	チェルノーゼム
	③	アミロース
	④	13, 290
	⑤	果菜

5点×3問

2	①	960
	②	0.3
	③	24

【共通問題Ⅱ】 2点×6問

1	①	ア
	②	シ
	③	ク
	④	ウ
	⑤	オ
	⑥	カ

2点×6問

2	①	ク
	②	キ
	③	コ
	④	ウ
	⑤	エ
	⑥	ア

2点×6問

3	①	ウ
	②	オ
	③	イ
	④	コ
	⑤	ケ
	⑥	ク

【共通問題Ⅲ】 2点×12問

1	ア
2	ウ
3	オ
4	ア
5	イ
6	オ
7	エ
8	ア
9	オ
10	オ
11	ウ
12	イ

記号	農	番号	
----	---	----	--

検査V 農業解答例

選択問題解答

【選択問題（ 1 ）】 （解答上の注意）：左の（ ）に，選んだ問題番号1・2・3のいずれかを記入すること。

2点×6問

1	①	発育枝
	②	徒長枝
	③	国内総生産
	④	国民総所得
	⑤	pH
	⑥	欠乏

6点×3問

2	(1)	<p>散布された【農薬】の一部は，残留農薬として生産物あるいは食品に残る場合がある。日本では，【食品衛生法】ですべての農薬について残留の上限値が定められ，1つでも基準を超えた食品の販売は原則禁止されている。【農薬使用基準】は，その農薬の残留基準をもとに，生産物で残留基準を超えることがないように定められている。</p>
	(2)	<p>ラン類のほとんどの種子は，種皮と【胚】のみで，植物の初期生育に必要な養分を蓄えた胚乳や子葉を持っていない。そのため，自然界では，共生する【ラン菌】から養分を摂取して生育している。無菌播種法は【ラン菌】を用いずに，【発芽】と生育に必要な糖や無機栄養などの養分を添加した無菌培地にラン類の種子を無菌的に播種し，【発芽】・生育させることができる。</p>
	(3)	<p>ワクチンが開発されている病気に対して，【予防接種】はその病気に対する抵抗力をつけるという目的で行う。ワクチンの種類には，生ワクチンと化学処理などによって死んだ病原体を接種する【不活化ワクチン】があり，数種類を混ぜた混合ワクチンもある。接種方法は，皮下や筋肉への【注射】，点鼻，点眼，せん刺，スプレー，飲水への添加がある。</p>

記号	農	番号	
----	---	----	--

検査V 農業解答例

選択問題解答

【選択問題（ 2 ）】 (解答上の注意)：左の（ ）に，選んだ問題番号1・2・3のいずれかを記入すること。

2点×6問

1	①	亜硝酸塩
	②	ボツリヌス
	③	UHT（超高温）
	④	10
	⑤	陰
	⑥	乳

6点×3問

2	(1)	タンパク質は数多くの【アミノ酸】がペプチド結合した分子量の大きな化合物である。【アミノ酸】はアミノ基と【カルボキシル基】をもち，【アミノ酸】のアミノ基と別の【アミノ酸】の【カルボキシル基】の間でペプチド結合が起こる。このとき【H ₂ O】1分子が排出される。
	(2)	プライベートブランド（PB）商品とは，【小売業者】などの流通業者が中心になって，商品の機能や品質，パッケージ，ネーミング，そしてブランドを決定する【自主企画】商品のことである。 ノーブランド商品とは，流通業者の開発商品の中で，ブランド名がつけられていない【低価格】を重視した商品のことである。
	(3)	マロラクチック発酵とは，乳酸菌のもつ【酵素】により，ワインの中の【リンゴ酸】を乳酸と二酸化炭素に変換する発酵である。 このとき【リンゴ酸】の分子に2つある，【酸味】に関わるカルボキシル基が1つ減ることにより【酸味】が減少する。

記号	農	番号	
----	---	----	--

検査V 農業解答例

選択問題解答

【選択問題（ 3 ）】 (解答上の注意)：左の（ ）に，選んだ問題番号1・2・3のいずれかを記入すること。

2点×6問

1	①	単純
	②	ゲルバー
	③	距離
	④	123° 00' 30"
	⑤	築地松（クロマツ）
	⑥	くり針

6点×3問

2	(1)	生物多様性の【指標】としてアンブレラ種の存在がある。アンブレラ種とは，【食物連鎖】のピラミッドの頂点に位置すると考えられる生物種である。イヌワシ，テンのようなアンブレラ種が存在する【生態系】は，これを支える多くの生物種が継続的にその密度を維持し，【生態系】が安定している。
	(2)	プライムコートは，路盤とその上に施工する【アスファルト混合物】とのなじみをよくし，路盤からの水分の【毛管上昇】を遮断するものである。プライムコートの材料は一般に【アスファルト乳剤】が用いられ，施工は路盤を仕上げた後に，上層路盤の表面に一様に散布する。
	(3)	屋上緑化の目的は，【ヒートアイランド現象】の緩和やビルの省エネルギー化，景観の向上などがある。既存の建物に屋上緑化をする場合は，屋上緑化に耐えることのできる【建築構造】であるのか綿密な調査が必要である。特に，課題となるのは，使用される【土壌】の軽量化や防水対策，防根対策，さらには落ち葉の問題にも配慮する必要がある。